

|           |                                                                                                                                                           |
|-----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 氏名        | 池 尻 孝 治                                                                                                                                                   |
| 学 位 の 種 類 | 医 学 博 士                                                                                                                                                   |
| 学位授与番号    | 乙 第 177 号                                                                                                                                                 |
| 学位授与の日付   | 昭和41年 9 月30日                                                                                                                                              |
| 学位授与の要件   | 博士の学位論文提出者<br>(学位規則第 5 条第 2 項該当)                                                                                                                          |
| 学位論文題目    | 放射線と白血病に関する実験的研究<br>第1編 X線照射の末梢血液像に及ぼす影響に関する各種系統マウスの比較研究<br>第2編 X線照射の造血臓器に及ぼす影響に関する各種系統マウスの比較研究<br>第3編 X線誘発 RF 系マウス白血病の発生におけるクロトン油の Coleukemogenic 作用について |
| 論文審査委員    | 教授 平 木 潔    教授 小 坂 淳 夫    教授 山 本 道 夫                                                                                                                      |

#### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

放射線誘発白血病の発生機序に関する研究の一環として各種系統マウスに350γ全身照射を行ない、末梢血液像及び造血臓器の経時的変化についての検索を行なった。RF系及び他系統の自然白血病嫌疑系マウスの間には初期変化は同一であるが、RF系が比較的早期より幼若細胞の増生、次で低形成期を経て白血病発生を来すのに対し、他系統においては全くこの様な進展を示さず反応性の成熟細胞増生に止まる事から、RF系では白血病誘発力を持つ因子を provirus の形で持ち、他系統マウスではこれを持たぬかX線照射により活性化され難い状態にあるのではないかと推論した。又、RF系マウスに対し各種線量照射とクロトン油、ウレタンを併用し白血病発生率の著明な増加を認め、Berenblumの提唱した発癌の二段階説は白血病発生についても適用される可能性があり、X線照射及びウレタンは initiator として、クロトン油は promotor として作用するものと考えた。

3 編共昭和40年 1 月30日発行岡山医学会雑誌第77巻 1 号に掲載

## 論文審査の結果の要旨

池尻孝治提出の「放射線と白血病に関する実験的研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は次の通りである。

池尻孝治は第1編で、白血病嫌発系の各種系統マウスに350γ全身照射を行ない、末梢血液像の経時的变化を追求し、R F系マウスに認められる前白血病期に特徴的な白血球数の一過性減少は、他系統マウスでは認めなかったと述べている。次で第2編では、同一条件で主要造血臓器の経時的变化の検索を行ない、R F系マウスが比較的早期より幼若細胞の増生、次で低形成期を経て白血病発生を来すのに対し、他系統マウスではこの様な進展を示さず、反応性の成熟細胞増生に止まる事を認め、R F系では白血病誘発力を持つ因子を provirus の形で持ち、他系統ではこれを持たぬか、X線により活性化され難い状態にあるのではないかと推論している。第3編ではR F系マウスに各種線量のX線照射と、クロトン油、ウレタンを併用し、白血病発生率の著明な増加を認め、Berenblumの提唱した発癌の二段階説が白血病発生についても適用される可能性があり、X線照射及びウレタンは initiator として、クロトン油は promotor として作用すると述べている。

以上の通り本論文は新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。